

思考力・判断力・表現力の育成

～伝え合い，学び合う授業づくりを通して（2年次）～

I 研究の内容

1 研究の目標

○問いや言語活動の工夫を通して，自分の思いや考えを豊かに表現し，互いの立場や考えを尊重しながら伝え合い，学び合うことで「思考力，判断力，表現力」を育成する。

2 研究の具体的内容

(1) 学級づくり・集団づくり

ア Q-U アンケート実施及び K13 法による分析・「今後の対応策」の検討

イ 各学年の「今後の対応策」の共有化，不満足群の児童の再確認

(2) 授業づくり・授業改善

ア 「自分の考えを持たせるための手立て」「自分の考えを表現する場の設定」「自分の考えを深めるための手立て」を考え，実践を積み重ねる。

イ 表現力を身に付けるために必要な言語活動を充実させ，「甲州市 Teacher's Note」を活用した授業づくりを行う。

第5学年 算数科授業研究「ならした大きさを考えよう(平均)」

授業者 佐野 誠一教諭

指導・助言 山梨県総合教育センター 富士池 慎一指導主事

ウ 学習会「ICT活用とプログラミング教育」

講師 峡東教育事務所 中村 弘和指導主事

エ 一人一実践（授業研究者以外全員）

オ 授業の構造化 板書用「めあて」「まとめ」プレートの活用

カ Q-U 分析結果を載せた指導案づくり・座席表づくり

キ 授業づくりにおける「伝え合い，学び合う子ども」の姿についての意識調査の実施（年2回）

(3) 保護者との連携

ア 「家庭学習の手引き」を利用した家庭学習ノート（いじりの子ノート）の指導・保護者への周知

イ 各学年の取り組みについての情報交換・系統的な支援の共通理解

ウ 自由参観日に合わせた「いじりの子ノート展覧会」の実施

Ⅱ 成果と課題

1 成果

- (1) K13法によるQU分析の実施で、自分の学級集団を他の教員と一緒に客観的に分析することで、普段気づかないことや具体的な対応策について視野広く考え、児童や学級を見直すことができた。QUの実施・分析は、クラス作り・授業作りのために役立てることができ、自分とは違う別の視点から学級経営、児童との関わりを見直し実践することができた。
- (2) 今年度は、多くの先生方の一人一実践を参観することができ、学ぶことが多く、有意義だった。忙しい中ではあるが、意識して参観する時間を作ることは大切だと思った。また、低・高ブロックでの研究に分けたことで、学年の発達段階に応じた話し合いができた。
- (3) 「いじりの子ノート」は、全職員共通理解のもと繰り返し取り組んでいることで、児童にしっかりと定着している。展覧会も児童や保護者への意識も高まり、楽しみにしている。
- (4) 昨年作成した「問い返し&発表方法アイディアカード」などを授業の中で活用した。「問い返し」や「友だちの考えを説明する」ことなど、言語活動を取り入れた授業案を練ることで様々な方法や発問を考え、実践することができた。
- (5) 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトの講演会は、どの内容も日々の児童との関わりに生かせるものがあり、大変参考になった。実践につながる内容だったので、算数科の授業で取り入れることができた。

2 課題

- (1) 「伝え合い、学び合う」ことについて意識をもって授業を行っていたが、場を工夫したり、教師の発問を工夫したりすることが十分に普通の授業の中でできなかつた。
- (2) 「伝え合い・学び合う」場を設定したことで、考えの広がりという点では成果があった。しかし、思考の深まりが見取りにくかったり、表現力の高まりが伝わりにくかったりという点については研究が必要だと感じた。

Ⅲ 成果物

- 1 Q-Uアタックシート（全学年）
- 2 授業研究授業案・一人一実践授業案及び実践のまとめ
- 3 授業づくりにおける「伝え合い、学び合う子ども」の姿についての意識調査
- 4 伝え合う井尻の子（聞く・考え・つなげる）の話型揭示物（高）
- 5 質問に答える時・質問するとき・くわしく話す時の話型の揭示物
話し方名人・聞き方名人の揭示物（低）
- 6 井尻小「家庭学習の手引き」（低・中・高）
- 7 いじりの子ノートアシストカード

（研究主任 山下史江）